令和５年５月 27 日

公益財団法人　大阪府文化財センター

主要地方道　枚方富田林泉佐野線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託

上垣内遺跡 23-1 調査　現地公開資料

はじめに

上垣内遺跡は、枚方台地の南西端部、讃良川を南方に望む丘陵の南側斜面に位置する遺跡です。周辺には寝屋川市太秦古墳群、石宝殿古墳、大阪府史跡である四條畷市忍岡古墳、国史跡に指定されている高宮廃寺跡など、古墳時代から飛鳥時代の著名な遺跡が数多く所在しています。

近年、上垣内遺跡内に計画された道路建設に先立ち、大阪府教育庁によって平成 25 年度から発掘調査が実施されてきました。これまでの調査で、古墳時代の竪穴住居や奈良時代の掘立柱建物などが発掘されています。今年度は、大阪府教育庁とともに、当センターが発掘調査を実施しています。今回の調査地は、南北を東西方向の谷地形に挟まれた丘陵状の地形の尾根付近で、南を讃良川、北を讃良川に流れ込む水路と JR 学研都市線、府道枚方富田林泉佐野線によって挟まれた部分です。

調査成果

今回の調査地は、西側は丘陵先端部近くの平坦地（以下、下段と呼称。）、東側は一段高い耕作地（以下、上段と呼称。）です。現在の耕作土とその下の江戸時代の遺物を含む土層を重機で掘削したのち、6 面の遺構面を調査しています。1 ～ 4 面は中世の遺構面と考えられます。各面では、畠の耕作に伴う畝溝が確認されています。第５面は、上段中央付近で北東から南西にやや低まった部分が確認されました。後述する横穴式石室の背後にあたり、古墳の周溝の可能性があります。第６面は、今回紹介する横穴式石室のほか土坑・溝が検出されました。

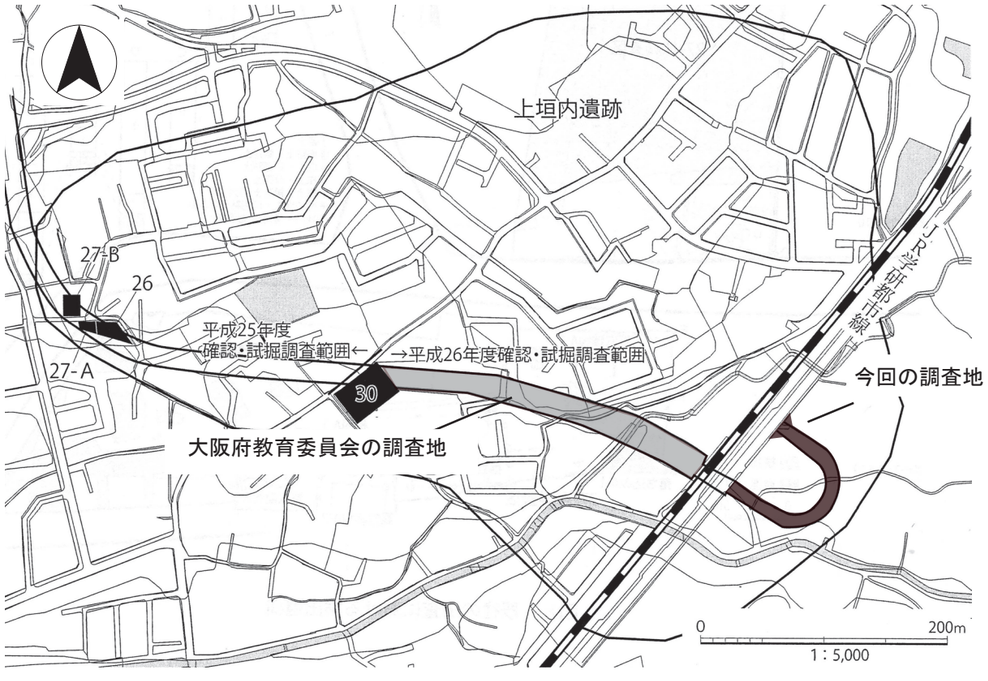

図１　既往の調査と本調査地点（大阪府教育委員会 2020『上垣内遺跡Ⅲ』を改変）

横穴式石室は、調査区南部の上段と下段の境の崖部分で発見されました。横穴式石室は、南北に主軸を持つ玄室規模 3.2m × 1.9m 程度の、入口部分で両側が細くなる両袖式の石室です。羨道部（石室入口の通路）は、現状では南東側が調査区外のため全容を把握できませんが、現存長 1.8m 程度です。奥壁・左側壁（奥壁側から見て左側）とも２段の石材が残っています。築造当時はさらに１～２段程度の石が積まれ、その上を天井石で塞いでいたと考えられます。石室内には、中央に凝灰岩製の石棺の底石が置かれ、玄室入口から羨道に蓋石として用いられたと考えられる石材の一部が倒れています。石室内からは、現在までに須恵器や土師器などの土器類、鉄製品、ガラス小玉などが出土しています。出土遺物は、６世紀末～７世紀前半にかけての須恵器が含まれています。第５面以降の新しい時代の遺構面では、上部の各層が石室石材に取り付くように地形的にやや高くなっていました。このことから、現在の地表では墳丘を確認することはできませんが、かなり後世まで盛り上がりがあったものと考えられます。

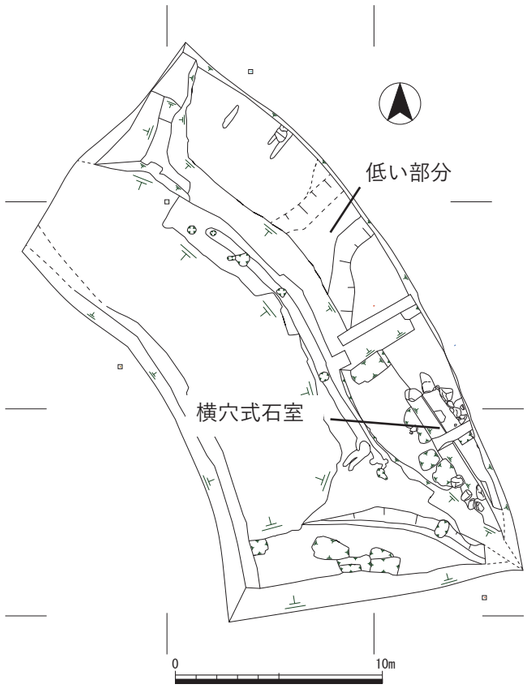

図２　第５面と横穴式石室

まとめ

これまで寝屋川市内では、北河内最大規模の横穴式石室を持つ寝屋古墳、飛鳥時代の石宝殿古墳などの巨石を用いた古墳のほか、古墳時代中期の太秦高塚古墳、第２京阪道路の建設にともなって発見された奥山１号墳などが知られています。当遺跡周辺でも、明和小学校前に大型石材が集められており、地名などに「塚」という地名が見られることから「打上古墳群」があったと言われています。今回発見された古墳は、規模は寝屋古墳には及びませんが、石棺は寝屋川市内だけでなく北河内でも非常に珍しいものです。寝屋川市内では、打上元町の明光寺に同じ凝灰岩の石棺を再利用した石碑があることが知られていますが、発掘調査での出土は初めてです。この地域には、謎の古代豪族「秦氏」との関連が指摘される「太秦」という地名や７世紀前半代に創建された古代寺院である高宮廃寺や近接して営まれた倉庫群など、飛鳥時代から奈良時代にかけてのさまざまな歴史の舞台が揃っています。今回の発見は、古代国家形成期である６世紀後半から７世紀にかけての歴史を考える上で貴重な資料となるでしょう。

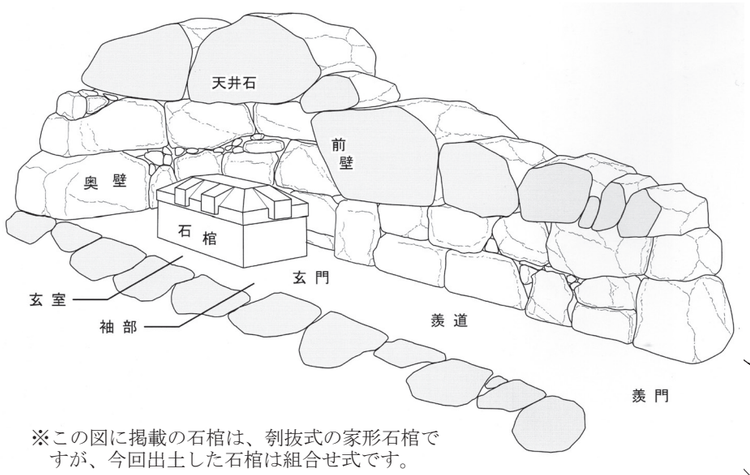

図３　横穴式石室の模式図と名称
（大阪府立近つ飛鳥博物館 2007『横穴式石室誕生』より）

写真１　南西から見た横穴式石室全体

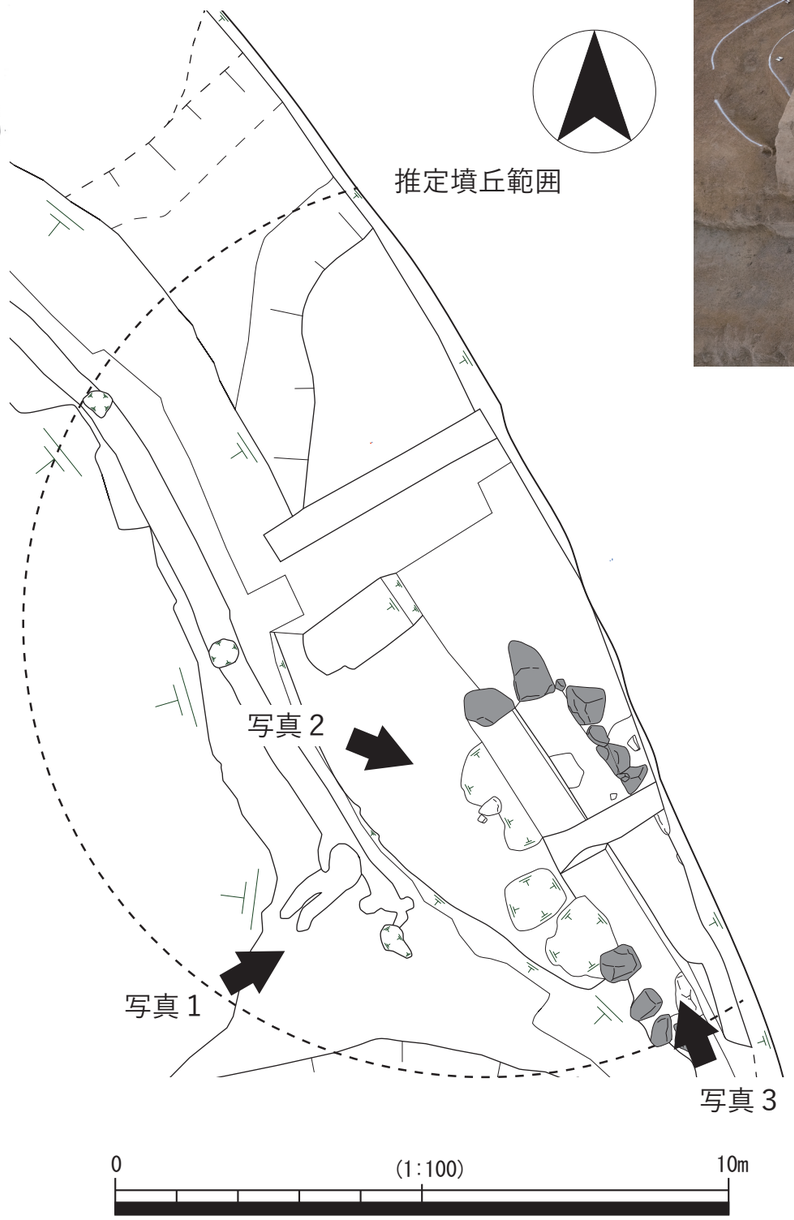

図４　横穴式石室と墳丘想定範囲

写真２　北西から見た玄室（げんしつ）と石棺底石（そこいし）

写真３　南からみた羨道（せんどう）に倒れた石棺蓋石（ふたいし）